

## 日大生のやってみたいを実現するプロジェクト成果報告書

2019023

プロジェクト名 カンポンに子どものための空間を。

## プロジェクトの概要

【インドネシアの子どもたちに自由に創作活動を行える場所をつくりたい！】

貧困層が多く居住する「カンポン」と呼ばれる住居地区では、劣悪な住居環境を改善すべく環境改善プロジェクトが進められています。その一助として、子どもたちのための自由な創作活動の拠点をつくり、ワークショップなどで交流をはかるとともに、地域に根付いた、子どもたちのための空間をつくります。

## プロジェクトの結果・成果

カンポンの子どもたちが自由に創作活動を行える場をつくるために、現地では調査を行い、適した空間を探しました。また、子どもたちと一緒に創作が行え、交流を深めさらにその空間を活用してもらうために、今回はワークショップを開催しました。ワークショップでは、カンポンの環境改善のために、エコに配慮した楽しいワークショップを企画しました。それが、ペットボトルキャップを用いたボトルキャップアートです。現地でもなじみのあるものを用いて、一つの作品を一緒に作りあげることで、交流をしながら関係を築き、地域コミュニティにとけこみながら、場づくりへの賛同を得ることができました。

ボトルキャップアートは事前にデザインしたアート図面上に、色を塗ったキャップを接着させていきます。今回のワークショップではメンバーで事前にキャップに色塗りをし、色のキャップを図面上に貼っていく作業を集まった子どもたちと一緒に行いました。

また、今回作成したボトルキャップアートの額縁には、インドネシアの伝統工芸品である、バティックと呼ばれる、伝統の絵柄が描かれた布を装飾に用いました。また、アートのデザインは日本とスラバヤの交流をテーマに考案しました。

当日は小学生以下から、中学生まで幅広い年齢の子どもたちやその保護者の方々にたくさん来ていただきました。また、今回のワークショップ開催にあたり、現地の大学(スラバヤ工科大学)の学生に協力をいただきました。事前の材料の調達から、当日は現地の言語で通訳などをしていただきました。

今回のプロジェクトでは、子どもたちのための場づくりと創作活動の足掛かりとなるワークショップを開催しました。今後は実際に誰でも・いつでも使える空間をつくるために実際に空間のデザインを行えたらと思っています。

## 活動写真

